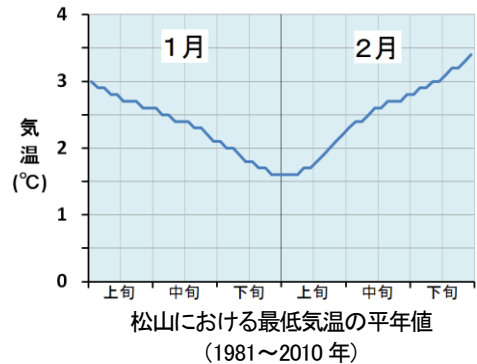




【1月の気象】

- ▷ 1月は、冬型の気圧配置となる日が多く、大陸から高気圧が張り出すときも北の冷たい空気を日本付近へ引き下ろすため、年間で最も寒く、雪の降る日が多い月です。平年値(1981～2010年)によると、月平均気温は松山で6.0℃、宇和島で6.8℃、松山の1月の雪日数は7.1日です。
- ▷ 冬型の気圧配置が強まるときは、北西の強風、大雪、低温に注意が必要です。特に北西の季節風が関門海峡から流れ込む場合は、山間部を中心に雨や雪の天気となり、平地でも大雪となることがあります。
- ▷ 2016年1月には、強い冬型の気圧配置に伴う強風や大雪、低温により県内で農業被害が発生しました。また、2018年の1月から2月上旬にかけても全国的に大雪や低温に見舞われました。



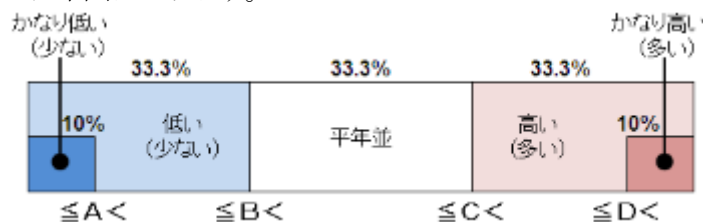
【気象用語】「平年差」「平年比」「階級区分値」とは

個々の観測地点における過去30年分の観測値を平均したものが平年値ですが、ある期間の気候の特徴や平年との違いの程度を表す統計値として、平年差、平年比、階級区分値があります。

平年差は、観測値や統計値と平年値との差であり、気温等に用います。平年値より大きい(高い)場合は正、小さい(低い)場合は負とし、数値の前に「+」または「-」の記号を付けて示します。

平年比は、観測値や統計値と平年値との比を百分率で示すもので、降水量や日照時間等に用います。

階級区分値は、ある気象要素の分布を、値の大(高)、小(低)によって複数の群(階級)に分けたときの各群の境界値(下図、下表のA, B, C, Dに該当)を示します。「高い(多い)」「平年並」「低い(少ない)」などの階級は、気温、日照時間、降水量などの値が地域ごとに天候が平年と比べてどうかを表します。「高い(多い)」「平年並」「低い(少ない)」の階級区分値は、過去30年間の地域平均平年差(比)が、3つの階級に等しい割合で振り分けています。また、値が30年間の観測値の下位または上位10%に相当する場合には、「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表現します。観測値や統計値が、どの階級に区分されるかは下図によります。



各気象官署(四国地方では松山、宇和島、高松、多度津、徳島、高知、宿毛、清水、室戸岬)の平年差(比)の平均を地域平均平年差(比)といいます。下表は四国地方における1月と2月の旬ごとの平均気温の地域平均平年差(1981～2010年)です。例えば、松山における1月下旬の平均気温の平年値は、気象庁ホームページの[過去の気象データ検索の旬ごとの平年値](#)によると5.4℃ですが、仮にこの1月下旬の平均気温が平年より0.7℃高い6.1℃となったとすると、地域平均平年差では「平年より高い」といえます。

【気温 平年差(℃)】 四国地方

月	旬	A	B	C	D
1	上旬	-2.1	-0.6	+0.7	+2.1
	中旬	-2.3	-0.7	+0.6	+1.5
	下旬	-1.5	-0.7	+0.6	+1.7
2	上旬	-2.1	-0.5	+0.6	+1.5
	中旬	-2.2	-0.8	+0.7	+2.4
	下旬	-3.1	-1.3	+1.4	+2.9

[各地の地域平均気象データ](#)は気象庁ホームページで検索することができます。